

令和元年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

### ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

#### 1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。

#### 2 友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。

#### 3 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

【学校から】○一人一人の子どもを大切にしたい指導に関しては、児童・保護者とも「4」「3」の割合が昨年度より5%上がっている。今後も「全職員で全児童を育てる」という共通認識の下、個のニーズに応じたきめ細かな対応を継続していきたい。○友達と仲良くしていると回答した児童（「4」「3」）は、97%と高いが、「4」と回答した割合に関しては教職員と大きな差がある。教職員から見た「不十分な部分」について分析し、より友好的な対人関係を構築していく。○道徳・心の教育に関しては、道徳科の授業の中で、児童が問題意識を持って主体的に考え、他者と本音で語り合う活動を通して自分を見つめさせたい。また、ボランティア活動等を通じた道徳的実践意欲の向上を図ってきたい。

### ②確かな学力を育む教育の推進

#### 4 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

#### 5 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。

#### 6 ICT活用

先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

【学校から】意欲的に授業を受けているという児童の割合（「4」「3」）は、昨年度より更に4%増え、92%となっている。本年度からタブレットを活用した授業が始まり、ICT活用による授業改善については、97%の児童が肯定的に評価している。「自分の考えや意見を伝えやすい。」「それぞれの考えや意見を比較・検討しながら広げ、深めることができる。」などの効果が実感できる。しかし、それが「わかる授業・楽しい授業」になっているかについては、まだ10%の児童が「2」「1」と回答しているのが現状である。本校の研究主題である「学ぶ楽しさやわかる喜びを実感できる授業の創造」を目指し、より個に応じた指導・支援を図ってきたい。

### ③健やかな体を育む教育の推進

#### 7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

【学校から】保護者・児童と教職員の意識の差が大きい。遅刻して登校する児童も多く、生活リズムの乱れが気になる。引き続き家庭や地域とも連携を図りながら、改善していきたい。また、体力向上については、体育の時間の運動量の確保とともに、縦割り班活動や業間活動（持久走、長縄跳びなど）などの取り組みを継続していく。

### ④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

#### 8 児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。

#### 9 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

### ⑤特別支援教育の推進

#### 10 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

【学校から】○児童理解やいじめや問題への対応については、保護者への連絡を必ず行い、迅速かつ丁寧な対応を心がけている。児童・保護者にもそれが伝わっている。ただ、児童理解の項目では「2」「1」の回答もわずかではあるが見られる。十分に理解・対応してもらえていないと感じる児童・保護者が存在するということを謙虚に受け止め、更にきめ細やかな対応をしていきたい。○特に気になる児童、支援が必要な児童については、毎週木曜日の「子どもを語る会」で共通理解を図り、組織的な対応を心がけていく。また、必要に応じて外部機関との連携を図り、協力して対応していく。

### ⑥子どもたちの身近な安全対策の充実

#### 11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

#### 12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

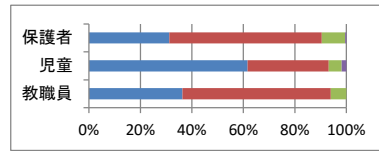
【学校から】○地域・保護者の協力もあり、児童の登下校時の安全・安心が保たれている。○自転車乗車時のヘルメット着用に関しては、児童・保護者への啓発を行ってきたが、まだ十分徹底できていない。継続して啓発を行っていく。

【学校から】○毎月の施設・設備の安全点検を入念に行うとともに、日頃から遊び方等の生活指導を繰り返し、児童の事故防止に努めている。○避難訓練を定期的に行い、緊急時に素早く安全が確保できるよう努めている。今後も安全点検・安全教育に努めたい。

## ⑧家庭・地域社会との連携強化

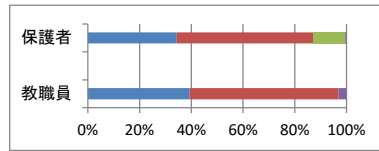
### 13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

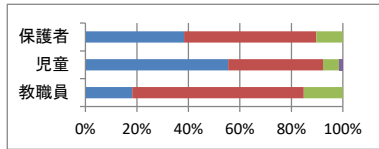


【学校から】○教育方針・目標については、保護者へは、学校便り、PTA総会、懇談会などを活用し、事あるごとに伝え、理解・協力をお願いしてきた。また、児童には始業式・終業式・集会等で伝えてきた。そのため、保護者・児童とも「4」「3」の割合が昨年より5%増えている。今後もわかりやすく伝える努力を続けていきたい。○教師の連携協力については、保護者の「4」「3」の割合は上がっているものの、できていないという回答も13%ある。更に協力体制を充実させていきたい。

## ⑨本校の教育

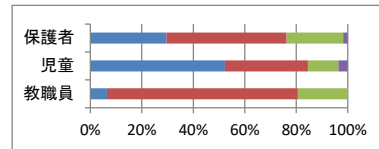
### 15 1

子どもに「あ・そう・だ」運動は定着していると思いますか。（あいさつ・そうじ・だれとでも仲よく）



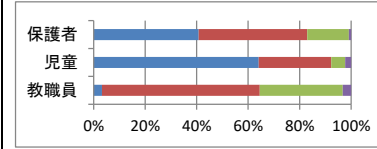
### 16 2

子どもは、家庭学習の習慣が身についていると思いますか。



### 17 3

子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できていると思いますか。



【学校から】○「あ・そう・だ」運動については、生徒指導部や児童会の取り組みにより、児童の半数以上が「4」と回答している。「3」も含めると90%の児童が定着しているという意識を持っているが、保護者や教職員との差は大きい。意識はあっても行動が伴っていない面も感じられるため、相手意識を持った行動ができるような指導・支援をしていく。○家庭学習の習慣については、児童・保護者・教職員とも20%程度が「できていない」という回答であった。家庭学習の意義を周知するとともに、内容についても「家庭学習の手引き」の見直しを行うなど児童が意欲的に取り組むことができ、家庭学習のあり方を考えていく。○「早寝・早起き・朝ごはん」については、児童・保護者と教職員の意識の差が大きい。SNSやゲーム等との向き合い方をはじめ、家庭生活のあり方について保護者と連携して考えていきたい。

## 来年度の具体的な取り組みについて

- 教育方針・目標の理解についての理解の浸透は見られるが、引き続き、全教職員の共通理解の下、その具現化に向けて実践を重ねていく。児童・保護者・地域に対しては、学校便り、学年・学級便り、学校HP、集会活動等を通して情報発信を行い、理解と協力を図っていく。
- 心の教育の充実については、主題を自分事として考えることができるような道徳科の授業改善を継続していく。更には、「あ・そう・だ」運動の徹底を図り、豊かな心を育てていく。
- 学力については、熊本市学力検査の結果を分析し、本校の課題を明らかにする。課題克服に向けた具体的な実践事項を掲げ、授業実践を重ねていく。
- 図書館教育に重点を置き、情報活用能力を培うとともに、読書への興味・関心を高めていく。ひいては、総合的な学力向上、豊かな心の育成につながることを考える。
- 電子黒板やタブレット等のICT活用に関しては、更に職員の研修を重ね、技量の向上を図るとともに、授業において効果的に活用していく。活用することが目的ではなく、一つのツールとして活用し、児童が楽しく主体的に授業に参加できるとともに、思考の広がり・深まりがある授業づくりにつなげていきたい。
- 家庭学習については、内容や量を精査し、児童の意識・意欲の向上を図る。保護者の理解・協力を得ながら学習習慣の定着を目指していく。また、個に応じた対応も行う。
- 遅刻の数の減少については、まずは、児童・保護者の意識を高めていく。生活リズムを整えることは、学力向上とともに心身の健康にもつながるので、食事、睡眠、SNSやゲーム、運動など様々な視点から基本的な生活習慣の育成に向けた働きかけを行っていく。
- いじめや問題への対応は、早期発見・即時対応・複数対応を行い、即日（早期）解決を目指す。
- 特に支援の必要な児童に関しては、引き続き特別支援コーディネーターを中心に全職員で共通理解を図り、組織的な支援体制を構築する。必要に応じて外部機関等とも連携・協力を図り、継続的に支援していく。

## 学校関係者評価

- 交通事故防止については、通学路で歩道が整備されていないところがある。今後も地域からの要望を出していきたい。
- 「子どもみんなの家」の表示は整備されている。緊急事態の際は、「子どもみんなの家」に限らず、身近なところにSOSを求めることができるように指導を続けて欲しい。
- 遅刻が多いのは、家庭の責任もあるのではないかと。引き続き保護者への働きかけを続けて欲しい。
- 不登校児童への学力保障をきちんとして欲しい。（登校できた際には、放課後等の時間を使って確保している。）
- 高齢者に対する対応等を学ぶ時間を設定して欲しい。具体的なスキルを身につけることは、将来の地域づくりにもつながっていく。（現在4年生の総合的な学習の時間で地域の福祉施設と連携した学習を行っている。今後もより充実させていきたい。）
- 夏祭りやどんどやなどの地域行事への子どもたちの参加が減ってきているように感じる。地域行事への参加は情操教育にもつながるので、学校からの働きかけをお願いしたい。